



新緑

しんりょく



【発行】社会福祉法人 新緑福祉会 / 神戸市西区玉津町水谷字セリ合 400-7 TEL.078-913-1277 FAX.078-913-1137 <https://www.shinryoku.or.jp/>



令和2年 新年を迎えて

新緑福祉会 理事長 平田 健次



新年明けましておめでとうございます。

皆様方には、健やかに新年をお迎えになられたことと思います。

平成24年4月新緑福祉会理事長に就任した際の決意を思い出し、新年を

むかえました。その決意とは「利用者のため、その保護者のため、そこで働く職員のための法人運営」です。

令和2年の新年にあたり、本年の目標をまとめました。

本年の目標の1番目は「利用者、保護者の高齢化への対応」です。

新たな入所施設の建設が難しい現状において、重度高齢化対応のグループホームの建設、もしくは以前より検討している知的障害に特化した特別養護老人ホームの建設などを考えてまいります。

近隣他法人でもグループホームの建設が進んでいます。民間資本を活用しての開設など、様々なノウハウを参考にしながら進めていきたいと思っております。

「取り組もう!親なきあとは親あるうちに」

手をつなぐ育成会の令和元年のスローガンです。

当法人においても計画を前に進めていきたいと思っております。

2番目は「利用者・保護者から選ばれる施設の運営」です。

利用者・保護者にとって利用する施設、福祉サービスを選べる時代になってきております。利用者・保護者から選ばれる魅力ある施設運営、福祉サービスの提供を心掛けたいと思っております。

現状では、人材不足が大きな課題になっており、職員には障害者の支援の仕事が働き甲斐のある仕事として、感じられるようスキルアップを目指していただきたいと思っております。

3番目は「福祉避難所の運営に関するマニュアル作成」です。

昨年は台風による河川の氾濫等甚大な被害がありました。25年前の阪神大震災の時も問題になりました。障害者を避難所に連れて行けず一晩、車中で過ごした話もあり、法人として神戸市と協力し、福祉避難所の運用について検討を進めるとともに、法人施設利用者の避難場所はどのようであれば良いのかについても検討します。その運用について、マニュアルを作成して参ります。

4番目は「新緑福祉会の施設・設備の老朽化対策」です。

新緑福祉会の施設は「平成・緑友」で30年以上、「新緑の家」で28年、一番新しい「とこはの家・玉津むつみの家」で17年が経過しており、建物、設備面での老朽化対策は喫緊の課題です。令和元年度はとこはの家の居室空調等を新しくしました。他事業所も順次改修を進め、安心して過ごしやすい環境を作っていきたいと思っております。

その他、色々な課題、懸案事項はあると思っておりますが、それらの解決策、方向性を見出すため、第2期中期計画を策定中であります。新緑福祉会の保護者会の皆様、手をつなぐ育成会の会員の皆様にはアンケート調査にご協力賜り有難うございました。皆様のアンケートを基に、年度内に第2期中期計画を策定する予定です。

また、法人内に課題、懸案事項解決のための組織を作りました。

施設長を中心とした「法人本部員会議」で解決策・方向性の素案を作成し、障害者行政に精通した理事を中心とした「法人幹部会」で解決策・方向性の原案を作成し、それを「理事会、評議員会」でご判断いただくものです。

法人理事、評議員、監事が利用者、保護者、職員と一体となり、協力をいただきながら一つずつ課題解決に向け努力していきたいと思っております。

今、思うこと



小出博彦は私の長男として平成元年5月8日に神戸で生を受けました。3歳になろうとしている時に私の仕事の都合で沖縄に行きました。自閉症で多動と言われたのも沖縄に行ってからでした。22年間沖縄で過ごし、私の定年退職で24歳の時に神戸に帰ってきました。その1年前位から博彦の通う施設を探し始め、ワークセンターいわやも2回程訪問しました。当時主任であった松田先生（旧姓、阿部さん）に丁寧に應對していただき、来てもいいですよ、予定に入れておきますと返事をいただき、安堵したのを覚えています。

2013年の11月に神戸に帰ってきて、12月からいわやに通

ワークセンターいわや 保護者会 副会長 小出 道夫

い始めました。しかし、年末位から、もともと持っていたアトピー性皮膚炎が悪化しはじめ、1月末に痒さで暴れてしまいました。アトピーに加えて、まだ慣れない環境で生活するストレスもあったのでしょう。沖縄から薬は持ってきたのですが、沖縄での夏の暑さと湿気による湿潤に対する薬は、気候が正反対の神戸の冬の寒さと乾燥による皮膚疾患には効かなかったようです。こちらで皮膚科医を探して3件目に今の六甲道駅前のM先生に巡り合いました。この先生の処方 がびたりと当たり少しの間に良くなりました。

3月からは丸尾先生（現、ちゅうおう障害者地域生活支援センター 主任）が担任を受け持たれて、痒がってくるとタオルで冷やすなど丁寧に對應していただき、いわやにも順調に慣れていきました。丸尾先生には担任として2年間、いわやでの博彦の順応と成長にご尽力いただき大変感謝しています。

現在はいわやでの生活にすっかり溶け込み、現先生方にも可愛いがられて、今度は安心による肥満が逆に心配です。休日にはがんばって一緒に歩くようにしています。2020年はいわやで7年目になりますが健康維持と体重減少（維持?）が目標です。

令和元年度 新緑福祉会合同行事



新元号「令和」になって初の合同行事。当日は身を切るような寒さでしたが、体育館内はやる気に満ち溢れた参加者の熱気に包まれていました。

準備体操「Beautiful Sunday」で体を温め関節をほぐし、いよいよ競技が始まると参加者のやる気は一気に最高潮。最初から最後までクライマックスの一日が幕を開けました。

毎年のオープニングを飾るのは「パラバルーン」。色鮮やかなバルーンが膨らんで縮み、華やかな集団アートの様でした。

新競技「繋ぐ」では、利用者が繋いだリレーのアンカーを施設長が務めました。どの施設長も意気込み充分にアンカーを努め、利用者の期待と声援に応える活躍を見せてくれました。

運も実力の内。「Try Your Luck」では各々の直感を信じて挑みました。3枚のイラストの中から、どのイラストを選べば勝ち進めるか？ わずか1/3の確率が明暗を大きく分けていきます。勝ち残った勝者には、特別な記念品の進呈がありました。

昼食を挟んだ午後の競技の初戦は、支援員による「綱引き」です。利用者、保護者、上司に同僚に先輩・後輩、様々

玉津むつみの家 橋本 岬

な人々からの声援が飛び交う中、戦いの火花が散りました。

合同行事の名物になりつつある「魅惑の変身」では、“変身”なのか“仮装”なのか、はたまた“コスプレ”なのか、どの施設も自由で煌びやかな衣装に身を包みました。「自分こそが1番!」と自信満々に審査員にポーズを決める姿は、正に“魅惑の変身”でした。

「大玉ころがし」は、全員の力を合わせなければゴール出来ない競技でした。自分の前を通過する一瞬に全力を込めて大玉を転がし、次の仲間たちにパスして行きます。勝ち負けよりもゴールまで行き着くことに全力を尽くし、素晴らしい名勝負となりました。

ラストを飾ったのは、「踊る新緑福祉会」。今年のダンスは「U・S・A」でした。“ダサがかっこいい”がテーマのダンスですが、みんなでキレのいい“メツチャかっこいい”ダンスに仕上げました。ライバル関係にあった施設同士でしたが、最後はみんなで楽しく踊り明かし、気持ちのいい汗を流して全ての競技を終えました。

次年度の合同行事はどうなるのか？ 令和2年度に期待大です。



第30回こうべ福祉・健康フェア (しあわせの村)

ワークセンターいわや 杉山 美知子

実施日時:令和元年10月6日(日)

10:00~16:00

売上:51,379円 参加者:18名



10月6日(日)はお天気に恵まれてしあわせの村 中央緑道一帯で行われました。

朝早くから、しあわせの村の施設の先生方にお手伝いをしてもらって開店の準備をしました。そして10時から販売を開始してたくさんのお客様が来てくれました。

何か欲しいものを見つけて「ありがとう」と言って帰っていただけると、こちらも嬉しくなってきます。

このバザーの為に品物を寄贈して下さいました皆様、ありがとうございました。

後援会の係の皆様、お疲れ様でした。



こうべロハスひろば in しあわせの村 リサイクルバザー

グリーンホーム平成 石川 ひろ子

実施日時:令和元年11月16日(土)

10:00~16:00

売上:76,861円 参加者:19名

今回は16、17日の2日間のバザー日程のうち、1日目・土曜の部に出店して日用品と古着を販売しました。

当日は秋晴れの爽やかなお天気となり、大勢の方が来て下さり終日賑わいました。

中には新緑のお店をわざわざ探して買いに来て下さる方や、両手に持ちきれない程たくさん買って下さる方も多数いらして、お布団などの大物もすぐに売れてしまう盛況ぶりでした。

お手伝いの保護者の皆様が力を合わせて頑張って、たくさん品物を販売する事が出来ました。

先生方には、保護者がお手伝いしている間の子供達を見て頂きまして、安心して販売する事が出来ました。有難うございました。



助成金をいただき購入いたしました

《兵庫県共同募金会様より》

令和元年9月に、兵庫県共同募金会様より助成金150万円いただき、9人乗りワゴン車を購入いたしました。

プール清掃の作業場所への移動や、行事に必要な備品の運搬に大変役立っています。誠にありがとうございました。

【ワークホーム緑友】

新緑's kitchen

新緑の家 管理栄養士 長瀧 晴美

新緑の家では、例年3月に年度末お楽しみ給食を実施しています。

食堂ホールに寿司屋台を設営して、提供しています。

握るのは、イフスコヘルスケア(株)の元寿司職人の調理師さん。いつもとは違う雰囲気、「おかわり!!」どのネタにしようかな?と考える表情は真剣で楽しそう。調理師さんに言葉やお寿司を指差してオーダーする利用者さん。自分で選択したネタは格別においしい様子。

目の前でプロの華麗な手さばきを見れるのも良いですね。

利用者さんの「美味しい顔」を見るのを励みに日々の食事づくりを行っています。



新人職員の自己紹介

ワークセンターいわや



たにむら まさみ
谷村 政美

これからの抱負

事務員

これまで福祉の世界とは、全く縁がなかったのですが昨年事務員として、働いています。職場は、ワークセンターいわやですが、仕事は「なだ支援センター」「発達窓口」「ちゅうおう支援センター」の事務が中心です。それぞれ職場が離れているので、連絡を取るのが大変ですが、みなさんの仕事が少しでも進めやすくなるよう頑張っていきたいと思っています。

なだ障害者地域生活支援センター



こはら だいすけ
小原 大輔

これからの抱負

相談員

昨年の11月よりなだ障害者地域生活支援センターでお世話になることになりました。これまで、主に児童福祉の分野に興味を持ち、保育園や放課後等デイサービスなどで保育士として勤務してきました。そのなかで、様々なご事情や課題を抱えながら生活をされている保護者（ご家族）の皆様からのご相談やお話を聞かせていただく機会があり、相談員の仕事をしてみたいと思いました。人と人との関わり、ひとつひとつの学びを大切にしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

日帰り旅行

ワークセンターいわや 支援員 根岸 桃子

毎日、作業や活動を頑張っている利用者さん。そんな皆さんに楽しんでいただくよう、施設内外色々な行事があります。その中での最大イベント、日帰り旅行を各班に分かれて実施しました。

現在11班もある大所帯のワークセンターいわや。その為、10月～12月の3か月に渡って行うこととなりました。

行き先は姫路、大阪、京都の3パターン。班ごとに多数決を取って決めました。

まずは姫路コース。姫路城をバックに記念撮影した後に、播州のものを使ったレストランで食事をしました。その後、アサヒ飲料明石工場で工場見学を行いました。工場見学のお土産にジュースをいただき、ご満悦でした。

2つ目は大阪コース。大阪歴史博物館とBKプラザ（NHK大阪放送局）を見学。テレビで見るキャラクターや撮影セットに驚き！昼食は新しく出来た大阪ジョーテラスでステーキやパスタを食べた後、大阪城公園で大阪城や紅葉を見て秋をいっぱい感じました。

3つ目は京都コース。伏見稲荷大社でお参りをした後に、京都伊勢丹でハンバーグやパスタに舌鼓。午後からは京都鉄道博物館に行き、本物の新幹線や機関車の迫力にびっくり！普段なら触れないスイッチやハンドルに興味津々な様子でした。

見学先で資料に見入る人、食事を心待ちにする人、お土産屋さんで目を輝かせる人・・・皆さん、思い思いに日帰り旅行を楽しまれています。



令和元年度法人虐待防止研修について

ワークホーム緑友 施設長 堀江 善也



今年は、12月13日・12月20日の両日、法人本部とグリーンホーム平成の2会場に分かれ、新緑福祉会法人虐待防止研修を行いました。

今年は、関西福祉大学の谷口 泰司先生に「虐待の“防止”を考える」—結果としての虐待防止—というテーマで、講義していただきました。先生が話された内容の中で、「『福祉は、こころ』という人もいるが、それは最低条件で、専門職としてのスキルが大切である。専門職としてのスキルが身につけていけば、虐待は起こらないし虐待というものの自体が存在しなくなる。」ということが心に残りました。

また、講義後のグループワークでは、6人から7人ごとで1テーブルになり、「虐待に関して普段から思っていること」や、「講義の中で感じたこと」を、話し合いました。

各グループからは、「事業所の日課にのれない人の対応をどうしたらよいのか、日課自体を見直す必要があるのではないか」や「利用者本人の意思決定が、施設・事業所の職員や家族に左右されていないか」というような意見が出ていました。

この研修で、改めて、普段行っている支援が、利用者本位のものになっているのかどうかを、考えさせられました。



明友 平成 緑友 3事業所合同もちつき会

ワークホーム緑友 施設長 堀江 善也

今年も、大阪ガス労働組合様のご厚意により、12月14日に緑友駐車場付近を中心に盛大に開催されました。

この時期は、小雪が舞ったりして、手がかじかむ中のもちつき会になるのですが、今年は、最高気温15℃と12月とは思えない暖かさで、利用者の皆さんは、例年よりリラックスして参加することができました。

また、保護者の皆さんは、テーブルで力を合わせて、小餅や持ち帰り用のお餅を丸める作業を頑張っていました。

今年も、明友・平成・緑友に加え、グループホームえみのきの入居者や、滝谷ホームの入居者も参加しました。

今回も、定番のきなこ、ぜんざい、大根おろしに加え、カレーや豚汁も登場し、利用者の皆さんはおなか一杯、つくたてのお餅を味わっていました。

今回のキャラクターとの記念撮影会は、トコトンちゃんが登場しました。大阪ガス労組の子供たちと利用者が触れ合う場面もあり、楽しい一日となりました。



報告 法人内各事業所で実習等の受入れを行いました(令和元年9月～12月)

ワークセンターいわや □ 青陽東養護学校 友生支援学校

グリーンホーム平成 □ 神戸女子大学 神戸親和女子大学 龍谷大学 佛教大学

ワークホーム緑友 □ 神戸女子大学 頌栄短期大学 海星女子中学 小部中学 神戸市外国語大学 佛教大学
 とこはの家 □ 神戸親和女子大学

講師派遣(令和元年9月～12月)

ちゅうおう障害者地域生活支援センター

- 令和元年10月3日、ちゅうおう障害者地域生活支援センター田中所長が、神戸市社会福祉協議会 新規職員採用時研修「障害福祉サービスについて」の講義を行いました。
- 令和元年11月20日、ちゅうおう障害者地域生活支援センター田中所長が育成会中央支部本人学習グループ「てとて」の依頼により、神戸龍谷高校1年生に対し「人権学習」についての講義を行いました。

なだ障害者地域生活支援センター

- 令和元年9月19、20日、なだ障害者地域生活支援センター山本副所長が、相談支援従事者「基礎研修」の運営協力を行いました。
- 令和元年9月26、27日、なだ障害者地域生活支援センター山本副所長が、相談支援従事者「初任者研修」のファシリテーターを務めました。
- 令和元年12月12日、なだ障害者地域生活支援センター山本副所長が、六甲および高羽あんしんすこやかセンターのケアマネ研修会において、障害福祉について、講師を務めました。
- 令和元年12月15日、なだ障害者地域生活支援センター山本副所長が、神戸女子大学社会福祉学科の「福祉・介護従事者キャリアアップ研修会」において、地域における知的障害者と家族に対する支援について講師を務めました。

神戸市発達障害者東部相談窓口

- 令和元年11月13日、発達障害者東部相談窓口 小林相談員が、東灘区居場所ネットワーク「なんでも相談サロン」合同研修会において、発達障害について講師を務めました。

グループホーム世話人对談 ～ついに実現!!「第一回世話人連絡会」?～

林田 和彦 × 中島 和代 × 小田 初江 × 川西 唯治

滝谷ホーム世話人

白川台ホーム世話人

神前ホーム世話人

えみのき(咲の樹) 世話人

司会進行：堀江 善也（ワークホーム緑友施設長）

記録：田中知恵子（ちゅうおう障害者地域生活支援センター所長）

司会：いつも皆様には、当法人のグループホームの利用者がお世話になっています。

また今日はお集りいただき、ありがとうございます。今回、皆様に日頃の様子や思いなどを伺いたいと思います。

ここで働くようになったきっかけを教えてください

林田：長い間、会社のために…と、企業に勤めていたのですが、「自分って人の役に立ってるのかな?」と思って、「自分の年齢にあうところや休みがあること」などの条件を考えながら、パソコンで求人を探しており、見つけました。（滝谷ホームの世話人って）なかなか決まらなかったんですね。

司会：そうですね、前任者が辞めてから、なかなか決まらなかったんです。

林田：再度、求人が上がっていたので、「あれ?大変なのかな?」って思いつつ応募しました。

司会：実際、仕事は大変でしたか?

林田：自分の周りに障がいのある人はいなかったので、どういうものかわかりませんでした。少しずつ対応の仕方を学んでいきました。利用者は5名だけですが、特徴も違います。仕事している以上は、向き合うことも必要ですし、悩みながら今に至っています。幸い、仕事もやりやすく、慣れたら恵まれていると思います。

司会：他の方はいかがですか?

川西：学生時代に社会福祉を学んだのですが、卒業後は違う仕事をしていました。将来的なことを考え、せっかく福祉を学んだので「何か活かせないか」と思って、たまたま“新設される“というのをハローワークの求人を見て応募しました。自然体で入らせてもらって楽しく仕事をしています。

小田：以前は事務系の仕事をしていました。人と接することは好きで、住んでいた社宅にもたまたま障がいの人もいました。介護にも興味があり、夫の転勤がきっかけで認知症のグループホームで支援員として働いたのですが、認知症の方と接することで、自分も一緒に成長することに気づいて楽しかったです。ここには、たまた

ま友人から紹介してもらい、気力も忍耐力もあるので大丈夫かな、と思い応募しました。

中島：私は、娘の家でチラシを見たのがきっかけです。歳も歳なので、一人でできる仕事を…とっていました。チラシには「料理ができる人、掃除の仕事」と書いていました。障害者という記載もあったと思うのですが、「料理、掃除。これなら一人で出来る!」と思って面接に行きました。初めは御影山手ホーム（平成21年閉鎖）で、その後は、白川台ホーム（平成21年オープン）で、計約10年働いています。

「仕事上でのやりがい」を教えてください

林田：食事を提供した時に、利用者が食べながら「うまい!おいしい!」と言ってくれることが一番うれしいです。ぼそっと「うまい」と呟ってくれる人もいます。食事は、毎日のことなので、健康にもつながります。塩分を控え始めて、2年数か月経つのですが、1年ほど前から、血圧の数値が150~160くらいあった方が120~130など、血圧が下がりました。それも嬉しいです!

司会：中島さんも、食事に共感されていますが?

中島：私もまったく同じです。今日はもう1品つけてみようとか、このメニューだとテーブルの色取りがよくなるのか…色々考えています。食べ終わった時に「あーおいしかった」と言ってくれるのですが、その声が聞こえないと、あれ?とってしまいますよね~。

昨日はローストチキンを作ったのですが、何も聞こえなくて・・・「また食べたいと思う?」と聞いてしまいました(笑)。「食べたい!」と答えてくれてよかったです。

小田：利用者全員の笑顔があり、「ごちそうさま」「ありがとうございます」と言ってくれると、「こちらこそありがとうございます」って思います。

司会：川西さんの勤めている「えみのき」では、食事は平成の厨房で作ると思うのですが、ごはん以外のやりがいはありますか?

川西：一番のやりがいは（「えみのき」は新設なので）入居者が来られていない時から、職員と「えみのきをどうしたらいいか」と話し合い、自分たちの意見も取り入

れてもらえたことです。立ち上げの時から働かせてもらったことがありがたい。ようやく利用者が揃って、今の流れができました。最初から職員に交じたことが、やりがいに繋がるし、あの時こうだったなあと思えるので、いい経験をさせてもらいました。

一番楽しいと思う瞬間はどんな時ですか？

川西：えみのきの方針は「利用者の方の個性を大事にする」ということを重きにおいています。それぞれ特性があり、例えば、ある方は枕カバーを隠すというルーティーンがあります。働く側からすると「なぜ？」と思うのですが、「今日も流れが始まったな。変わりなく元気だな。」と健康のバロメーターになりますし、笑いにも思えて楽しみになります。

司会：小田さんはいかがですか？

小田：55歳～70歳の方が入居されているのですが、食後にみんなで打ち解けて、「次は何を食べに行きたい」とか、「日帰り旅行は温泉がいい。どこがいいかな」とか、みんなの気持ちが一つになって、ウキウキして話をしている様子を見てると、自分も楽しいと思います。

林田：笑い話が受けて、大笑いをする時ですね。滝谷ホームは男性ばかりなので、あまり上品じゃない（おならのこととか）の話もするんですが、それがうけるんです。

司会：男性と女性は違いますか？

中島：やはり一緒ですね。じゃれあったり、ちょっととエッチな話をしたり、それに対して、みんなでキャッキヤと話をしていたり…。それと、「楽しいこと」と「嬉しいこと」は違うかな、と思います。私が料理をしていて、たまに包丁で手を切っちゃったり、「あー疲れた」などと、つい呟いたりすると「バンドエイド貼ってあげようか」とか「肩をもんであげようか」とか言って肩をもんでくれることもあり、とても嬉しいです。

最近面白いのは、夜に各部屋を見回りに行くんですが、みんなそれを楽しみにしているようです。

休みの日はどんな風に過ごしておられますか？

林田：ゆっくり家でゴロゴロしています。たまに趣味の釣りをします。また、犬と公園に行ったりしています。休めていますよ。

司会：世話人は、休みにくいのでは？と思うのですが、休めないことはないですか？

林田：有給休暇も使わせてもらっているので大丈夫ですよ。

川西：子供が4人いるので、子供の相手をしています。

小田：家の事をそっこのけで、山の仲間とトレッキングに行ったり、コーヒーの焙煎などもしています。

中島：105歳の母が施設にいるので、休みの日は、母の所に行ったりしています。ゆっくりの時間もいいですよ。

「こんなホームならいいな」ということがあれば聞かせてください

林田：滝谷ホームの場合ですが、運動する機械があればよいかと思います。運動したいという人がいるのですが、一つだけある自転車こぎを利用しています。そればかりなので、他の機械があればいいなあ。

司会：Wiiみたいなものがあるとみんなで遊べたりします？そんなのがあるといいかもしれませんね。

川西：「個々を大切にする」という「えみのき」の方針がいいですね。廣岡施設長はじめ、三浦主任も「ちょっとでも気になることがあれば言って欲しい」と言ってくれるので、職員の意見を取り入れて変わっていくのが、「えみのき」のよさかだと思います。新しい人が入ってきたときに「なぜこうしているのか」と聞いてくれた時の「なぜ」も大切にしていければと思います。光岡さんが来てくれて雰囲気も変わりました。新しい人が来てくれるのも、いいですね。

小田：今のホームからスープの冷めない距離にもう一軒あればよいと思います。お互いに交流できたり、世話人が休んだ時も互いに料理を提供できたりできると思います。「いわや」の職員にも助けてもらって感謝しています。あとは、今のところは「終の住み家」ではないので、先を考えないといけないし、家族も心配していると思います。ホームに「24時間ですか？とか空きはありますか？」と問い合わせの電話も入ります。だんだんそういう形にしないとイケないかと思います。

中島：これ、というのは思い浮かばないですが、歳を忘れて、みんなでわいわいしています。お互い、楽しい雰囲気なので、こんな雰囲気が続けばいいなあと思います。

司会：みなさま、今日は色々聞かせていただき、ありがとうございました。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。



支援者芳名録

【令和元年8月～12月】

「後援会扱い」

賛助会員名(敬称略)

丸尾宗茂、片岡静子、原田兼嗣

会費合計 9,000円

「法人寄付扱い」

寄付者名(敬称略)

片岡静子、酒井昭夫、松岡真也、関英子、浅川文字、原田兼嗣、石黒和夫

寄付金合計 125,000円

【法人】

新緑福祉会へのご寄付のお願い

社会福祉法人新緑福祉会へのご寄付受付を当法人事務局にておこなっています。

障がい(児)者の方が一人でも多く社会に参加し、生きることを心から楽しめるよう知的障がい(児)者の家族、職員一丸となって取り組んでおります。

当法人の考え方、事業に共感をしていただける皆様からのご厚情・ご支援をお待ち申し上げております。

皆様からのご寄付はこのように役立てています

- ・新規事業所の創設(グループホーム・相談支援事業所等)
- ・車両の購入(送迎用ワゴン車、作業用トラック等)

個人ご寄付 1口 3,000円、団体ご寄付 1口 10,000円

ご寄付の方法

《お振込》

郵便振込

口座番号: 00940-5-0236641

加入者名: 社会福祉法人 新緑福祉会(シャクワクフホウシ ユウワクカキ)

※後日、領収書を郵送させていただきますのでご住所、お名前、電話番号は正確にご記入願います。

《現金でのご寄付》

法人本部事務局及び、法人内各事業所でも受け付けております。

(受付時間 平日9:00～17:00)

※窓口にて「払込取扱票」をご記入いただけます。

※後日、領収書を郵送させていただきますのでご住所、お名前、電話番号は正確にご記入願います。

当法人にご寄付いただくと、以下の所得税法及び法人税法による控除が受けられます。手続きは、寄付をされた年の確定申告時に、当法人が発行した寄付金領収書を添付して下さい。

<個人の場合>

以下の限度額で所得税法の寄付金控除が受けられます。
 (「特定寄付金の支出額」と「総所得金額等の合計額の25%」のいずれか少ない方の金額) - 5,000円 = 寄付金控除額

<法人の場合>

次の限度額内で法人税法上の損金算入ができます。
 $(\text{期末資本金及び資本積立金} \times \text{事業年度の月数} / 12 \times 2.5 / 1,000) + (\text{当該事業年度の所得金額} \times 2.5 / 100)$

ご寄付に関するお問い合わせ

社会福祉法人 新緑福祉会

〒651-2121 神戸市西区玉津町水谷字セリ合400-7

TEL: (078) 913-1277 FAX: (078) 913-1137

メール: otolawase@shinryoku.or.jp

【後援会】

後援会賛助会員勧誘のお願い

新緑福祉会後援会(以下、後援会)は、社会福祉法人 新緑福祉会(以下、法人)に対し、毎年、施設用地の取得に係る借入金の償還金相当額 540 万円の財政支援をしています。また、各施設の建物改修、設備の更新等の経費に対しても、毎年、支援をしています。さて、賛助会員の皆様のご協力により、念願の「えみのき(咲の樹)」が竣工しました。今後は、ショートステイ、相談支援の運営にも期待が高まっています。ただ、親なき後の住まいについては、まだまだ多くのニーズが解消されておりません。そのため、さらなる事業拡大に向けて更に多額の資金が必要となり、資金集めに取り組まねばなりません。そこで、後援会としては、厳しい社会情勢ではありますが、今後もさらに法人と連携し収入の拡大に努めます。後援会の設立の趣旨にご理解を賜り、一人でも多くの新しい賛助会員のご勧誘をさせていただきますよう、また、すでにご加入頂いております賛助会員の方々には、ご加入の継続をご推奨いただきますよう、お願い申し上げます。

- 年会費:(個人会員) 1口 3,000円、(団体会員) 1口 10,000円(1口以上のご寄付をお願いいたします)
- 振込先: 郵便振込 口座番号: 00960-2-145979
加入者名: 「新緑福祉会 後援会」
- 新緑福祉会のHP(<https://www.shinryoku.or.jp>)に、後援会を関連機関として紹介しています。賛助会員についても掲載していますので、是非ご覧ください。

編集後記

社会福祉法人新緑福祉会の機関紙の第11号をお届けします。ご多忙の中、原稿を寄せていただいた皆様に感謝申し上げます。今回の特別企画「グループホーム世話人对談」は、いかがでしたか。共同生活の喜びと課題が垣間見えます。併せて、事業所ごとに活動報告が順次更新されていますので、スマートフォン対応のホームページもご覧ください。

後援会の皆様には、こうべ福祉・健康フェア村バザー、しあわせの村リサイクルバザーへの出店ありがとうございました。引き続き法人運営を支えていただきますことに感謝申し上げます。

法人では、今後も多方面からの支援を得て、利用者ニーズに応じた各種設備の更新を計画的に進めて参ります。